



評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市長官庁建築環境配慮制度運用マニュアル2016 | 使用評価ソフト：CASBEE_Nagoya_2016(v1.0)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)栄3丁目パーキング新築工事	階数	外観パース等 図を貼り付けるときは シートの保護を解除してください	
建設地	名古屋市中区栄3丁目3411番2、3401番2の一部	構造		
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員		
地域区分	6地域	年間使用時間		
建物用途	工場	評価の段階		
竣工年	2020年10月 予定	評価の実施日		
敷地面積	1,108 m ²	作成者		
建築面積	879 m ²	確認日		
延床面積	2,665 m ²	確認者		

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
= BEE0.3 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★	標準計算 30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★ ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)			
Q 環境品質			
Q のスコア= 1.9			
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)	
Q1のスコア= 0.0	Q2のスコア= 2.8	Q3のスコア= 1.3	

LR 環境負荷低減性			
LR のスコア= 2.5			
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境	
LR1のスコア= 2.0	LR2のスコア= 3.0	LR3のスコア=2.8	

3 設計上の配慮事項		
総合 周辺環境への影響を最小限とするよう配慮した。		その他 特になし。
Q1 室内環境 (立体駐車場の為、対象外。)	Q2 サービス性能 壁長さ比率 128.93/879.05=0.146として、プランニングの自由度が高い。露出配線の為、構造部材、仕上げ材を痛めることなく、電気設備の更新が可能である。	Q3 室外環境 (敷地内) 緑化率10.2%を確保しており、生物環境の創出に配慮している。
LR1 エネルギー LED照明の採用により、省エネルギーに配慮している。	LR2 資源・マテリアル 鉄骨柱・梁にSS400材、SN490材を採用し、材料使用量を削減している。躯体は鉄骨、外部仕上げは鋼板で取付をボルトで行い、部材の再利用可能性向上へ配慮している。	LR3 敷地外環境 燃焼機器を使用していないため、大気汚染防止に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)栄3丁目パーキング新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v1.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				2.0
LR1	エネルギー	2.0	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	0.0	0	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.075	
2. 自然共生				1.6
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.171428571	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.017142857	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.085714286	
3. 循環型社会				3.0
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.0	0.025	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 2.0



2. 自然共生

評価点 = 1.6



3. 循環型社会

評価点 = 3.0



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。